

23rd 全国曹洞宗青年会

sousei

187
2019.11

特集

外国人首座、
その眼に映る景色とは



特集

外国人首座、 その眼に映る景色とは



首座フェルナンデス浄賢
ブラジルサンパウロ出身
南米国際布教総監部同籍 平成 28 年安居

遠くブラジルで生まれ、はるばる日本まで来て大本山總持寺で首座という大役を見事に務めたフェルナンデス浄賢師。今日に至るまでに一体どのような道を歩んで来たのか。その足跡を探るべく大本山總持寺を訪ね首座・書記・弁事のお三方にお話を伺いました。

— 現在浄賢師は大本山總持寺に安居され4年目ということですが、まず仏教との出会いについて教えてください。

フェルナンデス浄賢師（以下浄賢師）／私はブラジルのサンパウロ出身です。小さい頃から日本文化に興味があり、10歳から日本の古武術を習っていたのですが、その稽古場が両大本山南米別院の佛心寺でした。また14歳からは「禪太鼓」というグループで、和太鼓を同じく佛心寺で習っていました。当時の私は、ただ稽古が楽しいという理由で通っていました。今思えば、意識こそしていないもののそれが仏教との最初の出会いでした。また、禪太鼓の稽古前には坐禅を行うのが習慣で、これが初めて坐禅に出会った瞬間です。しかし、稽古の為に通っていたので、様々な事情により稽古場が変わってからは佛心寺を訪れる機会も少なくなりました。

大本山總持寺 首座寮座談



佛心寺との不思議な縁

—では、本格的に禅と向き合うようになったのはいつ頃からでしょうか。

淨賢師／稽古場が変わり、佛心寺とも坐禅ともしばらく疎遠になっていましたが、ある時、友人から坐禅に誘われました。案内されて付いていくとそこは佛心寺でした。久しぶりに訪れて懐かしいと思うと同時に不思議な縁を感じました。

最初の数回は友人と一緒にでしたが、そのうち一人で通うようになりました。他の参禅者は40、50代以上の方が多く、そこに14歳の私が参加していました。次第に坐禅に親しむようになり、摂心会や徹夜坐禅、「サンガ会」と呼ばれる参禅者の集まりで交流を深め、佛心寺にいる時間も増えました。そこで縁があつて、佛心寺を主管し南アメリカ国際布教総監である采川道昭老師と出会えた事は今後の道を決める上で大きかったと思います。また、初めて袈裟を作ったのも、采川老師の勧めでした。ブラジルでは日本のように袈裟や緒子は買えませんので、自分で作るしかないのです

が、それも貴重な経験になりました。そして、授戒会が行われた際に得度し、淨賢という名前をいただきました。

—日本に来たきっかけについて教えてください。

淨賢師／大学卒業後の8月頃、采川老師に「君は日本には行く気はないのか？」と言われました。もともと日本に関心がありましたので、いつかは行きたいと思っていました。この言葉が背中を押してくれたような気がします。二つ返事で行きますと答えました。その3ヵ月後の11月には静岡県可睡斎専門僧堂に上山いたしました。

—その行動力、決断力には驚かされますが、母国を離れる事に抵抗は無かったですか。

淨賢師／先ほども申しあげた通り、小さい頃から日本に興味を持っており、坐禅も好きです。佛心寺でも日本語で簡単な会話はできていたので言葉に関しても大丈夫だろうと思っていました。

しかし、いざ上山してみると、私の想像していたものとは全く違いました。

—想像と全く違うとは、具体的にどのようだったのでしょうか。

淨賢師／佛心寺で経験したような坐禅を

し、朝課を勤めて禅の勉強をし、また更に坐禅をするという坐禅中心の生活を日本でもしたいと思っていました。しかし、私のしたい坐禅だけでなく、日中は公務も勤めなくてはならず、次第に口数も減り、早くブラジルに帰りたいと思うようになりました。

なぜここにいるのか

—淨賢師から見て日本の僧侶の印象はどうですか。

淨賢師／僧侶というのは坐禅をし、禅を語るものというイメージに縛られていたので可睡斎に安居した時はその違いに戸惑いました。当然ですが、参禅者として参加すると、実際安居するのでは全く違いますね。おそらく私以外の外国人僧侶の誰もが経験することでしょう。

当時の私は坐禅以外の行いに修行の意味を見出すことができず悩みました。「あなたたちはなぜここにいるのか？」と仲間達に聞きましたが、どれも私の悩みを根本的に解決するものではありませんでした。ある日、祈禱が終わった後に尊敬する古参和尚さんに「なぜここにいるのか」と聞きました。するとその古参和尚さんは、「うーん、なんでだろうね？」と答えたのです。その瞬間、私はこれだと思いました。

「結局みんなわからないのだ。なぜここにいるのか。しかし私はここにいる。だから

らやっついていかなきゃいけないのだ」。そこで大きな心境の変化があり、修行を続けていこうと思えました。それからブラジルに帰るまでの1年半の間、様々なことを学ばせてもらいました。

—ブラジルに帰ってから、大本山總持寺本山僧堂に安居するに至った経緯を教えてください。

淨賢師／平成27年の大遠忌の年の12月、ブラジルの佛心寺でも大きな法要がありました。また翌日にはパラグアイで、ある寺院の落慶法要があり、私も手伝いに行きました。そこにお見えになられていたのが本山總持寺の乙川映元監院老師でした。食事の時に少しお話をする機会をいただいたのですが、その際「大本山總持寺に安居してはどうか？」と尋ねられ、「はい、いきます」と答えました。そして翌年の3月には上山していたのです。

—淨賢師は書記和尚（浅井普成師）さんから見てどのような新到和尚さんでしたか。

浅井普成師（以下浅井師）／やはり空気感が全く違いました。おそらくそれは他の古参和尚さん、同期の新到和尚さんも感じていたと思います。可睡齋の安居経験があることも大きいと思いますが、ブラジルからはるばる日本へ修行に来られたということで、それなりの覚悟を持っていたのではな

いでしょうか。

—弁事和尚（後藤孝亮師）さんからみて、淨賢師の印象はどうでしたか。

後藤孝亮師（以下後藤師）／私が上山した当初は侍真寮（法要を主に執りおこなう寮舎）にいて話す機会も無く遠い存在でしたが、典座寮（食事の調理を司る寮舎）で同じ部署になり、そこで、料理のことや修行生活について様々なお話をすることができました。色々関わっていくなかで尊敬する存在になりました。そのような方と修行できることに喜びを感じ、自分も認めてもらいたいという思いから今まで以上に精進するようになりました。

—令和になって初めての制中になるわけですが首座寮誕生までのいきさつを教えてください。

淨賢師／最初にお話をいただいた時は、大本山總持寺の首座を日本人以外が務めることは前例のないことですし、本山での法要に関する知識も浅い私に、新到和尚さんを引く張っていく力があるのだろうかとお悩みました。また、しっかりと任を果たせないならば、いつそのこと引き受けないほうが良いのではないかとも思いましたが、周りからの勧めもあり次第に覚悟を決めていきました。

—弁事和尚さん、書記和尚さんはどのような決まったのでしょうか。

淨賢師／弁事和尚さんは典座寮で親しくしていた後藤師にお願いしました。

後藤師／弁事という大切な配役が私に務まるかどうか不安でしたが、尊敬する首座和尚さん、書記和尚さんの近くで修行できるありがたさと、少しでもお力になればという思いで受けさせていただきました。

淨賢師／浅井師は、私が看読寮（僧堂内の鳴らし物や給仕、清掃等を担当する寮舎）にいた頃、新到和尚さんを指導する立場の方でした。当時も本当に厳しい古参和尚さんでしたが、本山の行持にとても精通している方でしたので、私の知らないところを

補っていただけるのではないかと思います。書記の配役をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。

—制中（およそ3ヶ月に及ぶ集中修行期間）が始まる時にはどのような心境でしたか。

淨賢師／制中が始まって五則行持（首座が勤める制中最初の諸行事）が終わるまでとはにかく自分の事で精一杯でした。余裕がない中でも暗記しなければならぬ言葉覚える際には弁事和尚に手伝っていたので、とても助かりました。そしてこの行持を終えた頃からやっとな首座を務めているという実感が湧いてきました。それからはあつという間に時が過ぎていったような感じでした。



弁事 後藤孝亮（ごとうこうりょう）
愛知県養光寺徒弟 平成30年安居



書記 浅井普成（あさいふじょう）
静岡県龍豊院徒弟 平成27年安居

—書記和尚さんはいかがでしたか。

浅井師／個人的には、5年目ということもあり、あまり前に出過ぎないように心掛けていました。新到和尚さんに直接様々なことを教えるのは首座和尚さんと弁事和尚さんに任せて、一歩引いたところから全体を見渡して二人を補佐してあげたらと思いい、そのように務めさせていただきました。

—弁事和尚さんはいかがでしたか。

後藤師／首座和尚さんは制中が始まる前から新到和尚さんのことを気に掛けており、慣れない生活にとまどっている新到和尚さんの不安を理解してあげなくてはならないと言われていました。しかし、私はそのように心掛けていても日々生活をしていくと、思うようにいかず叱ることもあるので



歩きながらのインタビューの様子

すが、それを引きずっていると首座和尚さんは「冷静になれ、落ち着いて次どうするか考えよう、叱っているときは叱っている心でいい。楽しいときは楽しい心、落ち着いているときは落ち着いている心、それが、その場面場面での平常心だ」と論してくれました。また、これ以外にも首座和尚さんは禅の話にも詳しく折に触れて語ってくれました。そのおかげで禅や修行に関する考え方も深まり成長できました。

ただそれだけ

—最後に新到和尚さんの近くで制中をともに過ごしていかがでしたか。

浄賢師／私は特別な事は何もしていません。首座が偉いとも思っていない。頑張っている新到和尚さんの姿を見て私もやらなくてはならない。大衆（修行僧）がいるから首座という役が成り立つ。ただそれだけです。新到和尚さんの近くで制中を過ごして、僧侶として、首座として成長できました。そのような意味で私を首座にしてくれたのは、新到和尚さんたちではないかと思えます。

また、この制中を無事に過ごすことができたのも山内の全ての方々の協力があったことです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

取材／広報委員 秋元憲裕
広報委員 米澤高志



僧堂前の生飯台
「さばだい」といい、萬靈ばんれいに施すため、
中食ちゅうじき（昼の食事）の飯を7粒程度残し供養する



浄賢師が大本山總持寺でもっとも好きな場所は、
廻廊清掃で雑巾を絞る時に眼に飛び込む
この景色だということです

大本山總持寺国際室からの寄稿文

「僧堂安居」の日々は、これまで過ごした日常の生活と比べても特殊な環境に身を置くこととなりますので、日本人僧侶であつても最初は不安の中で過ごす安居者がほとんどです。ましてや日本で生活をしたことが無い者にとっては、僧堂安居の生活がどんなものかを想像すること自体が難しいことですから、まずはこのことを私たちは理解しておかなければなりません。

また、日本の僧堂で外国人と共に安居生活を送る中で、私たち日本人の僧侶が気にならなければならないのは、彼らがどのよう日本に日本に僧堂を理解し、自国の文化や習慣との違いをどこまで許容できるかということを見定めた上で、理解に苦しんでいるときには丁寧な説明を施すことであると思っております。

現在、大本山總持寺に安居している3人の外国人は、いずれもブラジル人で、ブラジル日系人社会の中で日本文化にある程度触れてきた環境の下で育ちました。それが功を奏したのでしょうか。彼らはそれぞれ4年目・5年目・6年目特僧という立場で現在も安居いたしております。

令和元年度夏安居では、フェルナンデス淨賢師が当本山の歴史上で初めて、外国人の首座として迎えられ、文化の違いや言葉の壁を乗り越えて、日本人であつても難しい本山首座の大役を、堂々と綿密に勤めました。また他のブラジルからの安居者も、外国語での坐禅会や外国人参拝者の対応はもとより、法要係の堂行としても立派に活躍しています。もう一人のブラジル人安居者は特僧として、現在は直歳寮での任を務めながら、外国人瑞世師の瑞持はもちろんの事、海外からの来山者対応にはなくては

ならない存在です。

しかし、どのような外国人でも現在安居中諸兄のように、日本の僧堂生活に柔軟に対応できる訳ではありません。それは国による文化の違いや僧堂という生活規範の違いからだけではないと考えます。

私がアメリカ合衆国の禅センターで国際布教師としてアメリカ人と生活をしていた際、食べ物やマナーといった文化的な違いに対しては、すぐに慣れることができました

た。普段は知らぬ顔でも、こちらが助けを求めれば、全力で手助けをしてくれる彼らに信頼の念を置いていました。彼らの多くは、年齢的にもそれぞれ独立した大人であり、他人の悩みにも耳を傾けることができると人生経験を持った人がたくさんいました。

一方、日本の僧堂での修行者もそれぞれが大人であることには変わりはないのですが、まだようやく社会に飛び出した青年た



ちです。助けの手を差し伸べないわけではないのですが、人を氣遣う前に先ず自分の務めを果たすことに精一杯で、他人の事まで補う力はまだ十分でないかもしれません。ましてや相手が外国人であれば、尚更消極的になってしまい、手をこまねくのも仕方がないかもしれません。

これまでも大本山總持寺では外国人安居者を受け入れた経緯はありますが、その中には志半ばで乞暇した者もおります。これを彼らが日本の僧堂生活の環境に馴染めなかつた者、と一概に言い切ってしまうてもよいのでしょうか。外国人安居者にとっては、日本の修行道場の生活はこれまでの日常とは全くかけ離れた世界であり、さらには想像もしなかつた縦の関係を基本とした生活に不安を覚えるのは仕方のない事です。外国人の安居者を受け入れる際には、

まず受け入れる側の責任と学習、そして理解が必要であり、同時に心のケアが彼らの安居生活の支えになると考えております。こういった状況から、布教化部国際室の一員として私は、努めて声掛けをし、笑顔で相手の眼を見て会話を持ち、まず“How are you?”と問いかけます。これは安居者だけではありません。この寺に来てくださる外国人と思われる方々全員です。この何でもない問いかげが、人の心を穏やかにしてくれるのだと思っています。

日本人が「ご機嫌いかが？」と問われても、「えっ、なんでそんな質問をするの?」と思っても仕方ありませんし、実は私も、

最初はアメリカで“How are you?”と事あるごとに聞かれることに懐疑の念を抱いていました。ところが、それに慣れてしまつたと、この“How are you?”の挨拶がなかつた時に、どうして聞いてくれないの?と疑問を持つほどになっていました。相手の様子を確認し合う、そうしたやり取りに多くの外国人は、心のつながりを感じているのだと思います。

また、外国人安居者を受け入れることで、日本人安居者が得られる刺激は多くあります。文化圏の違う人たちが、慣れない日本語で辯道する姿に、わが身を奮い立たせることができます。その反面、彼らは外国人だから出来ないであろうという先入観から、挑戦をさせないことはお互いの利益にならないことを知っておく必要もあります。

僧堂のみならず、日本の社会では、間違いを必要以上に強く指摘、否定されることもあります。外国人・日本人を問わず祖師方の拓かれた道場に身も心も投じる思いで上山する人にとっては、この状況は理解しがたいでしょう。このことから、自分の受けた苦しみを、同じように他の者に与えることの無いようにすることも必要かもしれません。

先ずは何より、国際室としては外国人安居者と積極的に話の機会を設け、会話から相互理解を図る配慮を心がけております。

文／大本山總持寺国際室主幹 宮前憲生



取材を振り返って

この度、浄賢師にインタビューをさせて頂いて、僧侶としての新たな気づきが沢山ありました。

普段、日本人同士修行しているだけではわからないことがあります。海を渡って修行に来ることの大変さを痛感すると共に、祖師方が築かれてきた禅の土壌から、今度は私たちに多くの気づきを与えてくれる。国際布教の真髄を見た気がいたしました。

また、経験と智慧を活かし首座寮、ひいては大衆全体を厳しくも優しい眼差しで見守る書記和尚さまの寛大さと、誰よりも目を輝かせて首座和尚さまの背中を追う弁事和尚さまの真摯さには心洗われるような気持ち

がしました。まさに役割が明確に分担されている理想的な首座寮と言えるのではないのでしょうか。

今後広い視野で国際的な仏教や禅の布教を考えるうえで非常に重要な意味を持っていると思います。

また、この制中を共に過ごした大衆の皆様にも大きな刺激をもたらしたのではないかと推察します。

結びに、今回取材を快く受けてくださいました大本山總持寺の皆様にごより感謝を申し上げます。

特集担当

広報委員、秋元憲裕

広報委員、米澤高志



大本山總持寺の三松閣（さんしょうかく）で営業している「禅茶房おかげや」コシのある麺で取材前に頂きました。



大黒尊天



百間廊下



精進料理教室

一如会（駒大高校後援団体）主催
令和元年7月27日、東京都曹源寺様で一如会（共催：全国曹洞宗青年会・以下全曹青）による精進料理教室が開催され約20人の参加がありました。講師はフレンチシェフとしても活躍の折橋大貴師が務めました。はじめに折橋師と森井宗淳教化委員長の挨拶があり、その後折橋師を中心に調理を進めていきました。終始和やかな雰囲気の中、慣れた手つきに感嘆しつつ

も、積極的に取り組み、質問される参加者の姿が印象に残っております。

また、この日のメニューは「梅の炊き込みご飯」「塩麴のけんちん汁」「ごま豆腐」「夏野菜のカダイフ包み」「トウモロコシのプディング」と夏らしいものでした。森井教化委員長からは三徳・六味の説明があり、それから出来上がった料理を手分けして配膳し、五観の偈を揃ってお唱えし、いただきました。

参加者からは、「素材の味が生かされている」「精進料理といっても様々な考え方があることに驚いた」「食材を大切に作る姿勢に感銘をうけた」といった感想をいただきました。

文／広報委員 秋元憲裕



味来食堂〜僧食を学ぼう〜

IN 曹洞宗檀信徒会館

令和元年9月14日、曹洞宗檀信徒会館で全曹青主催の精進料理教室「味来食堂」が開催されました。講師は山崎元道師が務めました。はじめに山崎師と森井宗淳教化委員長の挨拶、三心と六味の説明があり、その後山崎師を中心に調理が進められていきました。山崎師の朗らかな人柄もあり会場の雰囲気は良く、その中で参加者が真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。



この日のメニューは「トマトの炊き込みご飯」「モロヘイヤの梅おひたし」「季節のお吸い物(茄子とそうめん)」「とうもろこしの冷製茶碗蒸し」「じゃがいも餅のずんだ和え」と夏を感じるものであり、どの料理も精進出汁がしっかりと効いていました。出来上がった料理を配膳し、五観の偈をお唱えし、皆さんで和やかにいただきました。

参加者からは、「丁寧に料理されていて感銘を受けた」「精進料理は良いものだなと思った」「普段見えない視点から料理を学べた」「家では作らない料理が食べられてよかった」「楽しく学べました」といった感想をいただきました。

文／広報委員 石原顕成



「あいちトリエンナーレ」で『典座—TENZO—』上映

令和元年9月17日、愛知県名古屋市中で開催された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」内で、映画『典座—TENZO—』の先行上映が行われました。当日は200人を超える長蛇の列ができ、満席の中で上映が行われました。

上映後のトークでは、映画に出演いただいた愛知専門尼僧堂長の青山俊董老師にもご登壇いただきました。トークでは他登壇者や来場者からも、青山老師へ多くの質問が寄せられました。それら質問を通して、映画のシーンさながらに教えを賜りました。

青山老師は『典座教訓』の本質の部分を掘り下げ、映画でも描かれている「生命との向き合い方」を説かれました。「我が身を最も大切にしている気持ちがある」という前提から、「仏法において、他の生命を思い遣るとは、我が身を思い遣る気持ちを、他に向けることで為される」と説かれました。また「精進料理を司る『典座』という言葉に拘るあまり、本質的な部分を見失ってはいけない」と説かれ、この映画に



文／広報委員 菅 悠生

において、道元禪師の説かれた「喜心・老心・大心」の部分を深く考えながらこの映画を観ることが大切であるとお話されました。

来場の皆様も青山老師のお話に真剣に聞き入り、トーク終了後には「もっと青山老師のお話を聞きたい」「この映画を何度も繰り返し観て、理解を深めたい」「一方的に上から押し付けるような言葉ではない、同じ目線で語ってくれるこの映画は、素敵だった」といった声をいただきました。

映画『典座—TENZO—』アツプリンク渋谷・吉祥寺公開



アツプリンク渋谷・吉祥寺を皮切りに、令和元年10月4日より映画『典座—TENZO—』の全国上映が始まりました。多くのお問い合わせをいただく中、渋谷では午前中にチケットが完売し、満席での封切りとなりました。

上映前の舞台挨拶では、映画製作に至る経緯が語られました。製作者は東日本大震災以降、僧侶という存在が求められている事を実感した。そんな思いから、製作者自身が僧侶としての役割を実際に模索しながら、映画製作が進んだ事が語られました。また、作中にフィクションとノンフィクションを織り交ぜ、思い悩むありのままの姿を収めることで、本物の僧侶を身近に意識して欲しい旨が語られました。

上映後にはサイン会が開かれ、多くの方が出演者や監督と交流されました。中には神主さんや、若いクリスチャンのご夫婦な

ど、宗教の枠を超えて多くの方がお越し下さいました。「仏教の教えを描いた映画というより、これは仏教の実践者を描いた映画だ。そこが素晴らしい」「映画で描かれる感情や思いに、宗教者ではない自分も共感できた事に驚いている。お坊さんが身近な存在だったのだと実感した」という感想がありました。

私達僧侶の取り組みには、一般の方に寄り添うという目的を掲げるものが多くあります。しかし今回の映画の反響から、一般の方の中には、まだ僧侶をそういった存在と認識していない人も多くいるという事が分かります。映画『典座—TENZO—』を通して、そういった一般の方からの認識が変わっていることを実感できる初日上映となりました。

取材／広報副委員長 菅 悠生
広報委員 秋元憲裕



ダライ・ラマ14世、映画『典座—TENZO—』を推薦

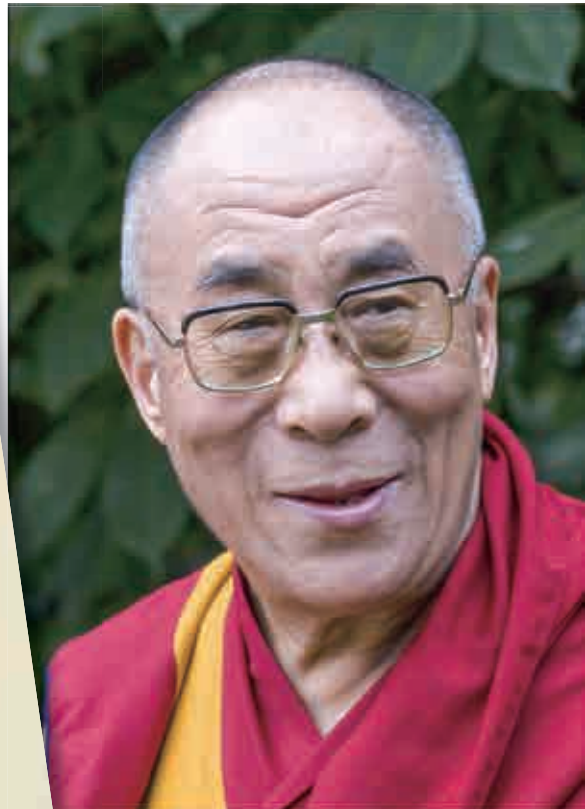
令和元年10月4日、アップリンク渋谷・吉祥寺をはじめとする一般公開に伴い、この映画に深く感銘を受けたダライ・ラマ14世より公開初日にメッセージを頂戴いたしました。以下、全文和訳になります。

映画『典座—TENZO—』が、社会に貢献する日本の僧侶たちの生活を描写していることを嬉しく思います。2011年の東日本大震災とその後の福島の大惨事を背景にしたこの映画は、人間、自然、そして社会のつながりについても描いています。

仏教の僧侶や尼僧たちが、宗教的な探求のみならず社会的な活動により関わることを、私は常に支持してきました。「人々の幸福のための奉仕」というこの映画のメッセージを通じて、日本における曹洞禅の伝統の中で、私たちの精神的な兄弟たちが行ってきた、この寛大で有益な取り組みが、世の中により広く知られることを願っています。

祈りと願いを込めて

ダライ・ラマ14世より



映画

『典座—TENZO—』

公開予定劇場一覧

いよいよ日本での一般公開が始まった映画『典座—TENZO—』。こちらでは10月25日現在の時点で分かっている公開予定劇場を紹介いたします。今後全国各地での上映を予定しています。詳細は映画『典座—TENZO—』公式HPをご覧ください。
<http://sousei.gr.jp/tenzo/>

公開日	都市	劇場名
10月4日～(公開終了)	東京	アップリンク渋谷&吉祥寺
10月26日～(公開終了)	静岡	静岡シネ・ギャラリー
11月9日～(終了未定)	宮城	フォーラム仙台
11月9日～(終了未定)	山形	フォーラム山形
11月9日～(終了未定)	福島	フォーラム福島
11月15日～(終了未定)	京都	京都みなみ会館
11月16日～(終了未定)	大阪	シネ・ヌーヴォ
12月下旬	広島	横川シネマ

レポート全曹書



第23期、両大本山に就任ご挨拶



6月19日、大本山總持寺拜登

令和元年6月19日、原会長はじめ、副会長、顧問、事務局長、委員長の総勢7人で大本山總持寺に拜登いたしました。第23期就任のご挨拶と前期の御礼、特に映画の完成と「カンヌ国際映画祭」「マルセイユ国際映画祭」での受賞についてご報

こども自然ふれあい広場

災害復興 支援部

NEWS LETTER

ニュース レター

こども自然ふれあい広場 in 愛媛

令和元年7月22日から24日に愛媛県で「こども自然ふれあい広場 in 愛媛」が開催されました。

参加してくれた福島県南相馬市の子ども達は、ほぼ全員が初めての飛行機に緊張した面持ちで、四国管区曹洞宗青年会の皆さんの待つ愛媛県へ。松山空港で愛媛県の子ども達と合流し、開会式の後に紙飛行機で遊び、夕食は今治市のB級グルメの「今治焼き鳥」を仲良くいただきました。

2日目は、しまなみ街道をサイクリングして大島へ。昼食には海鮮バーベキューや、様々なレクリエーションをして大騒ぎしました。午後は伯方島に移動し、ドルフィンスイム体験でイルカと一緒に泳いでたくさんの笑顔を見せてくれました。夜はバルーンアートをして、子ども達の「コレ作ってみて!」という要望に青年僧侶達は四苦八苦しつつも皆、笑顔でした。

最終日、帰りの松山空港で楽しみにしていたお土産タイム。愛媛の子ども達にオススメを教えてくださいました。福島の子も達は「楽しかった! また愛媛の皆と遊びたい!」と話してくれました。

文/災害復興支援部事務局長 原田恵一

愛媛



告いたしました。また、世界仏教徒青年連盟(WFBY)会長を兼任する村山顧問より、昨年会場をお借りして開催された「世界大会」の御礼と大乘仏教圏で初めての会長就任のご挨拶をいたしました。江川辰三禪師、乙川暎元監院老師より激励のお言葉と今後も機会があれば更に協同してまいります。ようとのお言葉を頂戴いたしました。

時を改め令和元年9月5日、総勢6人で大本山永平寺に拝登いたしました。同様に第23期ご挨拶、前期の御礼と、WFBY会長として村山顧問よりご挨拶申しあげました。小林昌道監院老師より全曹青との思い出や、大本山永平寺への今後の展望などのお話を頂戴いたしました。

両大本山、両祖様の教えを胸に、全曹青として邁進してまいります。

文／事務局長 金森成裕



9月5日、大本山永平寺拝登

こども自然ふれあい広場 in 宮崎の海

令和元年7月24日から26日に宮崎県青島青少年自然の家で、「こども自然ふれあい広場 in 宮崎の海 2019」が開催されました。

モノレール、飛行機と乗り継ぎ、少し疲れ気味の子ども達でしたが、気持ちよく晴れた宮崎の空気に触れてからは元気を取り戻した様子でした。サイクリング、浜辺での坐禅、サーフィン体験に海水浴、夜はバーベキューに花火と盛り沢山に行事が催され、各々交流を行いました。福島では原発事故後、子ども達が海水浴を行うことは大幅に減少しています。波に触れる機会が少なくなった子ども達が、喜びはしゃぐ姿に感慨深いものがありました。

帰路、モノレールの中で子ども達が「また宮崎に行きたい」と答えてくれた事は、この3日間が子ども達にとって貴重な体験になった事を確信できるものでした。

文／庶務 竹内大崇

宮崎



愛知

こども自然ふれあい広場 in 東三河

令和元年8月19日から21日に、愛知県東三河地域で、「こども自然ふれあい広場 東三河の旅」が開催されました。

1日目、まず妙厳寺(豊川稲荷)の広さに子ども達は驚き。お寺に泊まるのが初めてという子もいて緊張気味な面持ち。現地の徒弟研修会に参加していた子ども達、青年会僧侶達と交流しながらお寺での作法を学ばせてもらいました。

2日目、朝のご祈祷では自分たちの名前を読み込んでもらい、「名前が呼ばれた」と喜んでおりました。さらには境内のパワースポットにも行けて、朝から元気いっぱいです。

天気にも恵まれた初めての地引網体験では、みんな汗をかきながら縄を引っ張ったおかげで大漁でした。海水浴では、バナナボードやアスレチックを大騒ぎして楽しみました。夜は楽しみにしていたバーベキュー。色々な食材や、地引網で獲ったお魚も出てきて感動でした。

3日目は動物園へ。広い園内を自分達で集合時間間に合うように散策しました。

無事に新幹線に乗り帰路へ。車内では皆が「楽しかったね! また行きたいね!」と話していました。

文／災害復興支援部事務局長 原田恵一



全日仏青 NEWS



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

マレーシア仏教青年会来日、 震災被災地で国際交流

令和元年8月26日から8月30日にかけてマレーシア仏教青年会国際交流プログラムが東京都と福島県いわき市で開催されました。

今回のプログラムでは、マレーシア仏教青年会から15人が来日、日本の仏教徒青年のグループ CLUB25JAPAN から7人の



浄土宗大本山増上寺

学生が参加して国際交流が行われました。東京では曹洞宗檀信徒会館、浄土宗大本山増上寺、浄土真宗本願寺派築地本願寺、全日本仏教会、東京タワーを巡り、福島県いわき市では曹洞宗醫王寺、浄土宗九品寺子ども園インターナショナルスクール、浄土宗旧奥州惣本山専称寺、スパリゾート常磐ハワイアンズを訪れました。

プログラムのテーマ「Discover Japanese Buddhism」に則り、増上寺や築地本願寺などの東京を代表する伝統仏教の寺院を参拝し、全日本仏教会では日本への仏教伝来についての歴史講義を拝聴しました。いわき市では東日本大震災の被災地訪問として、2018年グッドデザイン賞を受賞した九品寺子ども園インターナショナルスクールを訪問し、日本の教育現場の視察と子ども達とのふれあいを通じて被災地の今を見ました。

醫王寺では日本仏教文化体験として施食会に随喜し、書道、茶道、香道、精進料理、応量器展鉢、暁天坐禅、朝課に取り組みました。茶道では抹茶を点て、書道では筆を持ち、香道ではお香を焚き、暁天坐禅では足を組み、朝課では共にお経を唱え、施食会ではお焼香をし、参加者自身で各プログラムを実践することで行ずることの大切さを学びました。

グローバル化が加速し、SNSで簡単に他者と繋がれる国際社会において、実際に顔を合わせて共に同じ時間を過ごしていくことで、相互理解と信頼を構築し、両国の青年の関係を深めていく事ができました。

文／広報委員 高柳龍哉



築地本願寺



福島県いわき市醫王寺

全日本仏教青年会新理事長 谷晃仁師就任祝賀会

全日本仏教青年会（以下、全日仏青）の新理事長を務める、天台仏教青年連盟の谷晃仁師の就任祝賀会が9月4日、京都市内のホテルにて盛大に開催されました。

約160人の出席者の内、全日仏青では副理事長を務める原知昭師をはじめ、全青からは13人が出席しました。2年間のテーマを「パートナーシップ」と定めて活動を始めた谷晃仁理事長の祝賀会には全日仏青加盟宗派の青年僧侶や、神道青年全国協議会の神職も出席され、宗派宗教を超えた連携に期待が寄せられています。

文／広報委員 高柳龍哉



執行部からのごあいさつ

全曹青 Real Voice



副会長 織田秀道

曹洞宗北海道第2宗務所青年会から3期目の参加となります。

今期が「過疎問題」を中心に据えた背景には「曹洞宗寺院は過疎地域に、他宗派よりも多く立地している」という実情があります。抗いようのない現実であり「法輪転ずれば食輪転ず」から「～転ぜざれば～転ぜず」の様相を呈し始めている事を地元でも実感します。多岐にわたる会務を統括する会長を微力ながらお支えしつつ、各加盟曹青会のご活動に刺激をいただき思索と実践の2年間にしたいと存じます。



副会長 山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会より6期目の参加となりました。全国から参加の心強い仲間たちと、支え励まし合いながら大変やりがいのある会務にあたらせていただけること、仏縁の有り難い限りです。微力を尽くしたいと思います。

加盟曹青会の皆様とともに歴代培ってこられた全曹青パワーを活かせるよう、また全曹青だからこそ出来ることを模索し努めていきたいと存じます。



副会長 宮本覚道

この度、全曹青副会長を務めさせていただきます曹洞宗岐阜県青年会より参加の宮本覚道と申します。

『今を創ろう 明日を咲かそう』のスローガンのもと、原会長を物理的だけではなく精神的にも支えながら、縁の下の力持ちとして全曹青のパワーアップに邁進していく覚悟であります。

未熟者ではございますが、任を与えられたことに感謝をし、その恩に報いることが出来るよう精一杯この責務を果たしていく所存です。

2年間どうぞよろしくお願ひいたします。報恩感謝。



事務局長 金森成裕

山形曹洞宗青年会より参加させていただいております。全曹青3期目を迎え執行部も事務局も経験の無い身ではございますが、思いがけず事務局長の任を仰せつかりました。不行き届きの点もあろうかと思いますが、皆様方にお支えいただきながら、今期スローガン『今を創ろう 明日を咲かそう』の具現化と全曹青会務活動運動の無事円成を目指し、精一杯努めさせていただきます。第23期全曹青をよろしくお願ひ申し上げます。



会計 武田信光

今期会計を務めさせていただきます、曹洞宗山梨県青年会より参加の武田信光と申します。前期は広報委員を務めさせていただいており、今期が2期目になります。

全国の御寺院様にはこれまでも温かいご賛助を賜り、誠にありがとうございます。いただいた浄財をしっかりと管理し、全曹青の活動が円滑に進むよう努めてまいります。

2年間よろしくお願ひ申し上げます。



顧問 倉島隆行

原会長、三役・執行部の諸師は昨年の大本山總持寺で開催された世界仏教徒青年連盟の世界大会や、過去の法要などで中心メンバーとして活躍してくれました。顧問となり更に会が発展するために精進させていただきます。過疎問題に取り組む上で欠かせない新たなパートナーシップの構築を期待しております。



顧問 村山博雅

現在、世界仏教徒青年連盟(WFBY)会長、全日本仏教青年会顧問を仰せつかっております。全曹青顧問として原会長の諮問に全力で応じ、世界と全国の仏教青年会における全曹青の活動を的確にサポートしてまいり所存です。第23期全曹青のスローガン“Building today for a better tomorrow”のもと、連続する青年僧侶の「今」を、更により良き未来に繋げていきたいと考えています。今期も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

- ◆岩手県
2 祇陀寺 様
17 清水寺 様
21 恩流寺 様
28 聖福寺 様
81 円城寺 様
101 正法寺 様
158 願成寺 様
194 藤源寺 様
199 保壽寺 様
290 長泉寺 様
319 観音寺 様

- ◆青森県
79 法光寺 様
100 澄月寺 様
183 大乘寺 様

◆山形県1
66 法体寺 様
148 定林寺 様
168 高松院 様

◆山形県2
285 泉高院 様
417 繁應院 様

- ◆山形県3
547 大洞寺 様
740 長應寺 様

◆秋田県
184 護昌寺 様
209 満友寺 様
216 向川寺 様
244 寶泉寺 様
265 倫勝寺 様
313 立昌寺 様
323 恩徳寺 様

- ◆北海道1
13 曹溪寺 様
45 延命寺 様
96 観音寺 様

◆北海道2
102 興禪寺 様
181 永祥寺 様

◆北海道
加藤泰久 様
龍象会 様

インターネット
受付分

◆山形県1
93 性源寺 様

ボランティア基金感謝録

秋田県 秋田県曹洞宗青年会 様

映画事業協賛金

神奈川県第2
山梨県
宮城県
秋田県

天徳院 様
慈照寺 様
福嚴寺 様
長慶寺 様

インターネット受付分

東京都 マチズモ 様
愛知県 守隨亭延 様

一般社団法人日本人形協会々員
全日本人形専門店会々員

東日本最大級の
大型人形専門店。

伝統文化の
継承



人形の東月
■人形の東月 いわき総本店 ☎0246(28)3675
■人形の東月 郡山本店 ☎024(939)3160
■人形の東月 福島御山本店 ☎024(534)0543

安心と信頼と感動を

創寿苑

本社／宮城県仙台市泉区福岡字北泉20-1
0120 FreeDial **0120-605-846**

仙台泉店 仙台南店
名古屋支店 横浜営業所

相澤秀生／川又俊則 編著
**岐路に立つ
仏教寺院**
曹洞宗宗勢総合調査2015年を中心に
3,000円+税

日本で最大級の寺院を有する
曹洞宗の宗勢調査を手掛かり
に多角的な観点から人口減少
社会における仏教寺院の実態を
浮き彫りにする。

人口減少社会と寺院
ソーシャル・キャピタルの視座から
櫻井義秀／川又俊則 編
主要宗派の宗勢調査、実地調査に
基づく多彩な事例報告から展望
する。 三、〇〇〇円+税

道元禅師のことは
『修証義』入門
有福孝岳 著
曹洞宗の聖典の一つである『修証義』
全5章31節を取り上げ、語句と内
容の説明を行う。 二、〇〇〇円+税

法蔵館文庫創刊！
仏性とは何か
高崎直道 著 一、二〇〇円+税
一切衆生とは何か。仏性を有すとは
どういうことか。仏教を本當に知
るための最重要論考。

法蔵館
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458 表示価格は税別
新刊メール配信中！ お買上15,000円以上送料無料

賛助費浄納御芳名簿

2019年6月27日～2019年9月28日取扱い分

◆東京都

17 龍澤寺 様
51 泉岳寺 様
70 永昌寺 様
81 長光寺 様
180 正覺寺 様
210 法清寺 様
307 田中寺 様

◆神奈川県2

16 正観寺 様
50 修廣寺 様
83 正翁寺 様

◆埼玉県1

166 全龍寺 様
392 報恩寺 様
436 陽雲寺 様

◆埼玉県2

336 永福寺 様

◆群馬県

83 常仙寺 様
85 東善寺 様
144 雙松寺 様
194 善宗寺 様
217 正泉寺 様
280 長樂寺 様
292 光嚴寺 様

◆栃木県

175 本光寺 様

◆茨城県

13 龍泉院 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
22 廣壽寺 様
25 萬福寺 様
29 慶林寺 様
35 海福寺 様
76 全宅寺 様
198 太高寺 様

◆山梨県

213 方外院 様
280 円通院 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
34 洞慶院 様
202 先照寺 様
421 盤脚院 様
463 栄昌寺 様
464 正泉寺 様
501 養徳寺 様

◆静岡県2

362 福泉寺 様

◆静岡県3

609 醫王寺 様

◆静岡県4

1095 天林寺 様
1105 仙林寺 様
1140 竹林寺 様

◆愛知県1

5 功德院 様
7 全香寺 様
8 浄久寺 様
62 菊泉寺 様
139 祇園寺 様
147 成道寺 様
162 妙測寺 様
202 世尊寺 様
261 薬師寺 様
313 長松寺 様
342 常楽寺 様
375 春江院 様
635 永澤寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様

◆愛知県3

411 福田寺 様
498 神後院 様

◆岐阜県

122 大龍寺 様
153 宗久寺 様
162 清楽寺 様
167 正宗寺 様
245 良守寺 様

◆三重県1

37 四天王寺 様
276 地藏院 様
305 傳法院 様
316 劔光寺 様

◆三重県2

408 東正寺 様

◆滋賀県

143 永壽院 様

◆京都府

26 岩屋寺 様
46 榮春寺 様
79 神應寺 様
236 善光寺 様
378 徳昌寺 様

◆大阪府

31 正泉寺 様
98 吉祥院 様

◆奈良県

5 興大寺 様

◆和歌山県

10 窓譽寺 様

◆兵庫県1

9 三宝院 様
79 常福寺 様
287 向榮寺 様
337 友松寺 様
370 明善寺 様

◆兵庫県2

173 瑞雲寺 様
221 永源寺 様
228 豊楽寺 様

◆岡山県

3 長川寺 様
131 済渡寺 様
178 成興寺 様

◆広島県

13 延命寺 様
46 双照院 様
76 長福寺 様
86 西金寺 様
89 積善寺 様
115 醫光寺 様
133 少林寺 様
158 西福寺 様
161 浄久寺 様

◆山口県

25 弘濟寺 様

◆鳥取県

16 瑞泉寺 様
80 定光寺 様
182 東光寺 様

◆島根県1

315 永明寺 様

◆島根県2

5 地福寺 様
45 禪覺寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
78 全隆寺 様
132 相圓寺 様
187 養善寺 様

◆愛媛県

135 秀禪寺 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

77 太養院 様

◆大分県

82 多福院 様

◆長崎県1

46 洞禪寺 様
55 瑞雲寺 様
78 宝泉寺 様

◆長野県1

49 信叟寺 様
330 興善寺 様
338 長谷寺 様
370 日輪寺 様

◆長野県2

441 雲龍寺 様

◆石川県

64 永光寺 様

◆新潟県1

358 円光寺 様
389 雲居寺 様
393 曹源寺 様
496 長樂寺 様
503 龍源寺 様

◆新潟県3

514 長命寺 様
558 周広院 様

◆新潟県4

23 観音寺 様
208 福樂寺 様
256 金源寺 様

◆福島県

38 常円寺 様
46 龍傳寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
111 普光寺 様
139 徳成寺 様
156 大龍寺 様
173 長慶寺 様
226 常隆寺 様
274 龍門寺 様
275 性源寺 様
304 梵音寺 様
343 西勝寺 様
405 勝方寺 様
461 正法寺 様

◆宮城県

80 東禪寺 様
113 繁昌院 様
114 東禪寺 様
203 洞雲寺 様
212 祥雲寺 様
252 福嚴寺 様
275 観音寺 様
293 梅溪寺 様
440 城國寺 様
465 松岩寺 様

「過疎」と向き合う

減りゆく日本・増加する世界

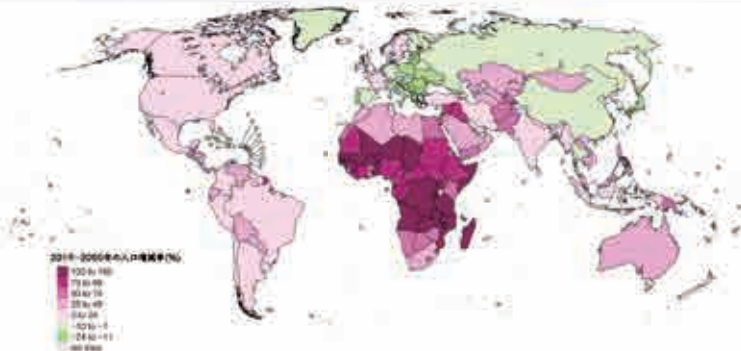
【減りゆく日本、増加する世界】

人口が年々減少し、過疎化が急速に進む日本とは逆に、世界人口は増加傾向にあります。国連経済社会局人口部は、『世界人口推計2019年版：要旨』の中で、人口は今後も増え続け、2100年頃には100億人を超える可能性がある」と発表しました。国別でみた人口の増加率は地域によって異なりますが、ことインドにおいては、今後10年以内に中国を抜いて14億もの人々を抱える「人口最多国」になると予想されています。

それに対して日本の総人口は2004年をピークに年々減少を続けています。このまま減少が続けば2050年頃には1億人を下回り、その影響は私たちの生活や経済だけでなく、日本が古くから受け継いできた伝統文化の継承にも大きな影響を与えるのではないかと危惧されています。いまだ具体的なかつ効果的な対策を見ない過疎問題。この難しい問題に一筋の光を齎すのは、

海の向こう側から日本へと訪れる訪日外国人の存在なのかもしれません。

2019~2050年の人口増減(中位推計による)



この地図に添えられている内容は、各国・地域・世界の推計増減率は国連に関する国連事務局の発表もあつてはいるが、正確性は十分に保証されておらず、あくまで参考情報としてご利用ください。また、国連事務局の発表もあつてはいるが、正確性は十分に保証されておらず、あくまで参考情報としてご利用ください。

【日本を訪れる外国人】

現在、日本で働いている外国人は約150万人と言われ、ここ10年で約3倍に増えました。外国人を雇用する事業所の数に目を向けると、東京都が全体の約3割を占め、次いで愛知県、大阪府と続きます。在留資格や雇用業種はさまざまですが、ここにおいても大都市圏への人口集中がみて取れます。

しかし、前年同期比の増加率でみると、宮崎県の23.7%増を筆頭に地方自治体の名前も並びます。なかでも島根県出雲市は大手企業が集積し、同自治体が定住政策を整えたことで外国人が増加。島根県全体の増加率は15.42%増と全国で1位となりました。言わずもがなではありませんが、雇用があり、法整備がなされれば地方であろうとも外国人は増加することが予測されるでしょう。

さらに観光面でも日本を訪れる外国人は年々増加傾向にあります。観光立国を掲げる日本の訪日外国人者数は年間3,000万人を超えており、JNTO(日本政府観光局)のHPでは、国内における訪日外国人を対象としたインバウンド事例を掲載しています。その中には都市部や有名な観光地だけでなく、被災地や過疎問題に苦しむ地域における事業内容についても紹介されています。その地域が誇る伝統文化といった魅力を発信し、訪れる人々と交流していく。それ自体が人口の流出や過疎化を防ぐ第一歩とも言えるでしょう。

在留資格別外国人労働者数の推移



出典：国土交通省「外国人労働者の状況」(毎月公表資料)
注：「特定活動」は、特定活動の外国人労働者数。技術・人文系高度な専門技能は、技術・人文系高度な専門技能の外国人労働者数。短期滞在は、短期滞在の外国人労働者数。長期滞在は、長期滞在の外国人労働者数。永住権は、永住権の外国人労働者数。



【魅力を伝える】

自らの持つ魅力をアピールしていく。それは宗教においても例外ではありません。曹洞宗宗務庁では、東京オリンピック、パラリンピック開催期間中、『Tokyo禅アリーナ』と呼ばれる坐禅の体験会を開催することを発表しました。曹洞宗の坐禅を主軸に、曹洞宗のもつ魅力を体験してもらおうという内容で、オリンピック開会からパラリンピック閉会まで、およそ30日間にわたって開催される予定です。

坐禅や曹洞宗のもつ魅力を、自身の体験を通じて伝えていくことによって、世界へと発信していく。その取り組みは全曹青においても行われており、外国人を対象とした教化資料の製作も進められています。

もちろん曹洞宗の持つ魅力は坐禅だけではありません。精進料理、作務や写経などの修行体験、お寺に泊まるだけでなく、その空間に足を踏み入れるというだけでも、その方にとって大きな実りあるひとときとなることでしょう。

【国際化する日本】

人口が減りゆく日本、増加する世界という現実を鑑みれば、就労であれ、観光であれ、今後多くの外国人が日本を訪れるようになるのは想像に難くありません。これまでの、国内宗教教団の国際布教と言えば、海外に拠点を作り活動していくものがほとんどでした。そのなかで、訪日外国人の増加は、国内における国際布教の可能性を示唆します。国内であるからこそ、比較的内容

易に我々の魅力を体験的に伝えることが出来ます。またSNSによってその魅力は世界へと発信され、海外拠点で活動する僧侶との連携により、様々な展開が可能です。

しかし、日本という国家の中で、言語や文化の違う人々がともに生活していくことは容易ではありません。宗教的魅力の本質は人々の「心の安寧」にあります。過疎と言う未曾有の社会問題に向き合う日本において、さまざまな違いや価値観を認め合い、ともに歩んでいく事は非常に重要なことです。



参考資料

①『世界人口推計 2019年版 データブックレット』

<https://www.unic.or.jp/files/15fad536140e6cf1a70731746957792b.pdf>

②国際連合告報センター <https://www.unic.or.jp/>

③厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/000472892.pdf>

④法務省 <http://www.moj.go.jp/content/001289225.pdf>

⑤JNTO（日本政府観光局） <https://www.jnto.go.jp/jpn/>

⑥Tokyo 禅 アリーナ

https://www.sotozen-net.or.jp/syumucyo/20190712_2.html

<https://www.facebook.com/TZA2020/>

その最前線で手を取り合う姿勢を示すことも、我々僧侶に求められることのひとつなのかもしれません。

文／過疎問題担当庶務

堀江 紀宏

中野 孝海

令和元年九州北部豪雨・台風15号・台風19号被害へのお見舞い

この度の九州北部を中心とした大雨被害、及び台風15号・台風19号による被害に遭われました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

全国曹洞宗青年会では被害状況の把握に努め、迅速な支援活動を行っていく所存です。一日も早く皆様方の日常生活の復旧が実現されますことを心より祈念申し上げます。

全国曹洞宗青年会 会長 原知昭



8/31、9/7 災害復興支援部に寄せられた九州北部豪雨被害地域ボランティアの様子

青年僧侶の映画レビュー

この映画のあらすじは、地球温暖化により極地の氷が融解し、海流の急変が発生して、氷河期を引き起こす。これをきっかけとして世界各地で異常気象が発生していくという内容です。

仏教には「山川草木悉有仏性」という言葉があります。人に限らず、ありとあらゆるものに仏性が備わっているということです。人の声に耳を傾けるのも大事なことです。昔よりも日常生活が充実してきた今だからこそ、大切な資源の声に耳を傾けるのも大切なことです。

ここ数年だけ見ても、日本のみならず世界中で気温の急激な上昇や急激な下降、豪雨災害など地球環境が著しく変化しております。私の住む、北海道でも昨年には胆振東部地震がありました。その際には家族、近隣や全国の方々々に助けられて生活していました。いつも以上に人の絆そして温かさを感じた瞬間でした。たとえ小さくても、人と人の助け合いが必ず身心の救いとなることを身をもって体験しました。

このたびの台風でも多くの地域が被災されました。自然災害というのはいつでも自分に起こるかわかりません。ですから自分の住む地域が無事だから良いのではなく、自分の事のように被災された方々の気持ちに親身になって寄り添わなければなりません。

映画では気象学者である主人公も氷河期は数年後にくると考えていましたが、実際には数日後にきました。21世紀は社会でも「環境の世紀」といわれています。現代がまさに人と環境の分岐点です。

担当/広報委員 松崎 清文



「THE DAY AFTER TOMORROW」

表紙の話

特集タイトルを意識し、古い洋館を撮影地としました。異文化の中から、僧侶の瞳には何が映るのでしょうか。

撮影地:広島県尾道市「商業会議所記念館」
撮影:広報副委員長 菅 悠生